

あ いさつを つ づけると 木 (人を+プラスにする) 市立

と もだちを だ いじにする 小学校 戸田小学校

いい な あ 宣言 (人の話を大事にする言葉)

「いい」ねえー 「な」るほど 「あ」りがとう

自分も人も大事にしたい あなたへ

「こころ」はだれにも見えないけれど
「心づかい」は見える
「思い」は見えないけれど
「思いやり」はだれにでも見える
あたたかい 心も
やさしい 思いも
おこなひに なって
はじめて 見える
その気持ちを カタ升に!!

「ジングルベル」戸田小学校校歌」作詞者

宮澤章二 「行為の意味」より

活躍する(伸びる)子の習慣はここが違う

厚木市立戸田小学校

「いい言葉を使う」のも、「いい習慣」を築くための大切な事の一つです。具体的に言えば、「教室に入る時には元気に ” こんにちは ” と挨拶する」「先生や目上の人には敬語を使う」「人の悪口は言わない」「コソコソ話をしない」「ぐちを言わない」と言ったことです。

一昔前までは、「挨拶する」とか「敬語を使う」といった事は、地域の大人との関わり、部活の先輩・後輩の関係、武道の稽古で自然と身につけていくものでした。ところが、今は、地域との関わりも減り、部活・武道の稽古をしない子供たちが珍しくありません。その結果、上下関係を知らずに育つ子供が大勢いるのです。そのような子供たちは、人にあったら「挨拶をする」、目上の人には「敬語を使う」、何かしてもらったら「お礼を言う」というルールを知らず育てられています。たとえ知っていたとしても、そのようなことをするようには教え込まれていないので、なかなか実行することが出来ません。どこかで誰かがルールを教えなくていけないことです。

「言葉使いもろくに知らない人が社会人になっても活躍出来るはずがない」事を、私たちはよく知っている事だと思います。

言葉はとても大事なものです。言葉はその人の「生きる姿」を映し出すものと言っても過言ではありません。どういう思考をしているのか、人格や思考は全て言葉によって表現される事が多くあります。

別の言い方をすれば、「いい言葉」を使えば、脳はいい思考をするようになります。逆に「悪い言葉」を使っていれば、悪い思考をするようになります。

だからこそ、子どもころから「いい言葉」を使う習慣を付けなくてはなりません。そして、子どもに「いい言葉」を使わせたいなら、まずは、子どもの身近にいる親が「いい言葉」を使わなくてはなりません。子どもは大人の言葉を聞いて成長するものです。大人が「悪い言葉」を使っていれば、子どもも「悪い言葉」に染まってしまいます。子の活躍を願うなら、子の望ましい成長を願うなら、私たち自身が、つねに「いい言葉」を使うよう意識していなければならない事だと思います。 **「言葉は香り」** です。

「姿勢・言葉づかい・あいさつ」は活躍する子を育てる

子どもたちを観察して感じること

	活躍する子(伸びる子)の習慣	活躍しない子(伸びない子)の習慣
言葉づかい	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう・感謝・やるぞ・できる ・やさしい言葉づかい ・グチが少ない ・人が喜ぶ言葉づかい ・敬語が使える 	<ul style="list-style-type: none"> ・むり・できない・ビミョウ・不満 ・乱暴な言葉づかい ・悪口・グチが多い ・人がいやがる言葉づかい
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・人を気持ちよくさせるあいさつ ・あいさつの習慣が身に付いている ・礼儀正しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶がしっかり出来ない ・挨拶の習慣が身に付いていない ・礼儀を知らない
動作姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢がいい ・聞く姿勢がよい ・きびきびしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢が悪い ・聞く姿勢が悪い ・ふらふらしている
表情	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい笑顔が多い(理由は考え方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・暗く、しずんだ顔が多い(理由は考え方)
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ないのは自分が原因 ・出来たのは のおかげ ・できるまで続けるぞ ・100%理解しようとする ・質問を良くする ・プラス思考する 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ないのは親のせい ・学校のせい・先生のせい ・友達のせい・僕だけじゃない ・どうせ出来ない(苦手だ)から ・~~でいそがしいから ・だいたいわかっているから平気 ・質問をしない・マイナス思考
態度の習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの整理整頓が出来ている ・親に感謝・わくわくと取り組む ・良いライバルがいる ・予定の時間前に準備を終える ・時間を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・机の周りが汚い ・親の言うことを聞かない ・いやいや取り組む ・出来ていない人と比べて安心する ・時間に遅刻(時間にルーズ)
学習の習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・家で計画的に勉強する ・プリントをしっかり閉じている ・提出物を忘れることなく出す ・勉強と遊びの時間が 区分けされている ・家での学習習慣が身に付いている ・明日の予定がわかる ・ノート整理がていねい ・テストの日程がわかっている ・宿題以外の学習もする 	<ul style="list-style-type: none"> ・家で勉強をしない ・プリントをぐちゃぐちゃにする ・提出物を出さない ・テレビゲーム等を 叱られるまでしている ・明日の予定がわからない ・ノート整理が雑 ・テストの日程がわからない ・宿題を忘れる・宿題しかない

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>読書の習慣(特に伝記)</u> ・親子の会話が深い ・夢を持っている (尊敬する人がいる) ・地域での評判が良い ・いい気持ちで早寝している ・地域の行事や出来事に参加する ・ボランティア活動や様々な体験が多い ・<u>格言(ことわざ)を良く知っている</u> ・<u>好きな先生が多い</u>・<u>人と公平に接する</u> ・より良い友達関係が出来ている (類は友を呼ぶ) 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の習慣がない ・親子の会話が浅い ・夢を持っていない (尊敬する人がいない) ・地域での評判が良くない ・寝る前にイヤなことがある ・地域の行事や出来事に参加しない ・様々な体験をしていない ・格言(ことわざ)を殆ど知らない ・好きな先生が少ない ・公平に接する事ができない ・より良い友達関係ができていない 等
-----	---	---

あなたのお子さんの行動は、どちらが多いですか？

まだ、他にもありますが記載している「活躍する子の習慣」の殆どは、親が子に教えなければならない教育です。これらのことは、一朝一夕には身に付きません。身につかせせ方も大事ですが、幼少の時から育児の大事な内容として育まれてきます。育児をほったらかしにしていたのでは身に付かないことがらです。

「育児を育自」として、自分育てを行ってきたかどうか。親の子への教育を、教えるだけの教育をしてきたのか、共に育つ共育をしてきたのか。大きな違いが出てきます。

学校での生活や学習でも、「姿勢が悪い」「始まりのチャイムが守れない」「言葉づかいが悪い」児童で、学力が向上する事はまれで、人の心をつかむ活躍は期待できません。

今からでも遅くありません。まず、「言葉づかい」「人を大事にする言葉」から実践してみてもいいでしょう。

親の姿勢 子の姿勢 (良い習慣も悪い習慣も育てたのは親の影響が大きい)

子どもを誉めるとき、子どもを誉めつつ、親の育て方に感心し、感謝しています。

文責 教頭